

研究・調査報告書

報告書番号	担当
391	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)	
Injury and repeated injury – what is the link with acute consumption, binge drinking and chronic heavy alcohol use?	
傷害と反復性傷害 急性飲酒、多量飲酒、慢性多量飲酒との関連について	
執筆者	
Gerhard Gmel, Fean-Claude Givel, Bertrand Yersin, Fean-Bernald Daepfen	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Swiss Med Weekly . 2007; 137: 642-648	
キーワード	
傷害、反復する傷害、救急治療室、飲酒、飲酒様式	
要 旨	
<p>(目的)</p> <p>現在の傷害が日常の飲酒様式よりも急性の飲酒と関連を示すかどうか、また、反復する傷害が急性の飲酒より日常の飲酒様式と関連を示すかどうかについて検討する。</p>	
<p>(方法)</p> <p>2003年1月1日から2004年6月30日の間にスイス、ローザンヌの救急治療室を受診した7872人の患者を調査対象者として飲酒量を調査した。日常の飲酒様式は日常の飲酒量(一週間の飲酒量)により定義し、多量飲酒は月に一回以上の多量飲酒(男性5杯以上、女性4杯以上)の有無により定義した。急性の飲酒量は救急治療室を受診する前24時間以内の飲酒量により定義した。そして飲酒様式が現在の傷害と反復する傷害に及ぼす影響をそれぞれロジスティック回帰解析により検討した。年齢と性別を調整した。</p>	
<p>(結果)</p> <p>急性の飲酒と多量飲酒は現在の傷害と有意な関連を認めた(オッズ比 OR (95%信頼区間):急性の飲酒 1.680(1.547-1.823),多量飲酒 1.507(1.263-1.798)。一方で日常の飲酒様式は反復する傷害の予測因子であった (OR:日常の飲酒量 1.349(1.207-1.507)。</p>	
<p>(結論)</p> <p>急性の飲酒は飲酒量が多いほど現在の傷害と強い関連を認め両者は量反応曲線の関連を示していた。急性の飲酒は日常中等量の飲酒者にも日常多量飲酒者にも認められることから、日常の飲酒量情報は急性の飲酒情報よりさらなる現在の傷害についての予測因子とはならない。一方で反復する傷害は慢性の多量飲酒で多く認められた。そして日常の飲酒様式は急性の飲酒より傷害の“常習性”すなわち反復する障害と強い関連を示した。以前に受傷したかどうか以前の傷害に関する質問は救急治療室において慢性の多量飲酒者や多量飲酒のエピソードのある中等量飲酒者を鑑別するのに役立つ可能性がある。また、このような質問は飲酒様式の違いを鑑別する方法の検討に役立つであろう。</p>	